

## 学校における寄附物品等取扱要領

### 1 目的

本要領は、学校に対し PTA、自治会又は学区組織(以下「PTA 等」という。)から寄附の申し出があった場合における適切な寄附採納を行うため、寄附受納の可否や留意事項など基本的な考え方をまとめることを目的としています。

### 2 寄附による予算執行に当たっての基本的な考え方について

#### (1) 公費と私費の基本的な考え方

学校運営上必要となる経費は、「公費」と「私費」に区分されます。本市においては、公費・私費の負担区分について、次のとおり整理するものとします。公費で負担すべきものについては、適切に学校予算を計上し、その範囲内において、執行します。

#### 【公費負担を原則とする経費】

公費負担を原則とする経費は、教育活動、学校管理運営等の学校運営に係る経費であって、市立学校において共通の水準の維持に必要なものとし、次の表に定めるとおりとします。

|   | 区分         | 概要                                  | 具体例                                                                                                                                                            |
|---|------------|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 職員の人件費及び旅費 | ・ 職員の給与<br>・ 教育活動や学校管理運営に必要な出張に係る旅費 | ・ 会計年度任用職員を含む全職員の給料、報酬、各種手当等<br>・ 公務での出張に係る旅費 など                                                                                                               |
| 2 | 教育活動費      | ・ 私費として整理するもの以外の事項に係る経費             | ・ 教科活動・特別活動に必要な職員用の教具(教材を提示し、又は職員若しくは生徒等が操作することで生徒等の理解を助け、学習効果を高めるための具体的な道具及び物をいいます。以下同じ。)、教材(生徒等が学ぶべき情報が盛り込まれた教育内容そのものをいいます。以下同じ。)等に係る経費<br>・ 教科活動・特別活動を実施する上 |

|   |                     |                                 |                                                                                   |
|---|---------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|   |                     |                                 | で必要となる共用的なものに係る経費<br>・保健室に常備する救急医療薬<br>など                                         |
| 3 | 学校施設又は設備の整備費及び維持管理費 | ・学校施設又は設備の建設、維持修繕、改修、保守管理に必要な経費 | ・校舎、体育館、屋外運動場、プール等の施設及び給排水設備等の設備の建設、維持修繕、改修、保守管理に係る経費<br>・校内（敷地内）の環境整備に係る経費<br>など |
| 4 | 学校管理運営費             | ・学校の管理運営のために必要となる経費             | ・光熱水費<br>・通信運搬費<br>など                                                             |

### 【私費負担を原則とする経費】

私費負担を原則とする経費は、受益者負担や原因者負担の考え方にに基づき、幼児・児童・生徒(以下「生徒等」という。)の保護者、自治会の加入者、学区組織の構成員等(以下「保護者等」という。)に負担を求めるべき経費であって、次の表に定めるものとします。ただし、保護者等に負担を求めることの妥当性は、直接的な受益の有無や直接の原因者負担に当たるかなどを十分に検証し、判断するものとします。

|   | 区分                                                             | 概要                                                                                                                    | 具体例                                                                                                                                  |
|---|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 生徒等の個人の所有物に係る経費                                                | ・生徒等が所有し、学校・家庭のいずれにおいても自由に使用可能なものに係る経費                                                                                | ・制服、体操服、実習服、鞆、名札、生徒手帳、個人用学習用具、参考書、辞書類<br>など                                                                                          |
| 2 | 教育活動費のうち教育活動に必要なものとして生徒等個々に直接的利益として還元される経費(生徒等の自主的な活動に係る経費を含む) | ・学校が行う教育活動の一環で必要となる教具、教材等のうち、生徒等が所有し、学校・家庭のいずれにおいても自由に使用可能なもの<br>・生徒等が参加して生じる利益が生徒等に還元されるもの(教育活動の一環で実施される講習会等の開催に係る経費 | ・授業、実習等において必要な教具、教材等に係る経費で、生徒等が所有し、学校・家庭のいずれにおいても自由に使用可能なものに係る経費<br>・書道、絵画、調理等に係る各種実習用材料費<br>・修学旅行、校外学習、映画鑑賞等への参加に必要な経費<br>・保険料、給食費等 |

|   |                                         |                                                                                    |                                                                                                                               |
|---|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                                         | を除く。)<br>・生徒指導や進路指導上において生徒等に直接還元される経費<br>・部活動、生徒会活動、文化祭、体育祭等の開催又は学校図書に係る一定水準を超えた経費 | ・部活動の活動費<br>・生徒等が自主活動を行うに当たって、市立学校における共通の水準を超えて整備しようとするもの など                                                                  |
| 3 | 生徒等の原因者負担となる経費                          | ・生徒等を含む個人、法人、団体等の責任に起因して生じることとなった経費                                                | ・器物損壊に係る備品購入費・修繕料 など                                                                                                          |
| 4 | PTA 等が主催する事業又は主体的に参画する事業や主体的に行う活動に要する経費 | ・PTA 等が実施主体である事業、行事等に係る経費<br>・PTA 等が主体的に参画する事業や主体的に行う活動に要する経費                      | ・PTA 等が主催となって講演会を実施し、生徒等や保護者が参加した場合における当該講演会に係る経費 など                                                                          |
| 5 | PTA 等の運営に要する経費                          | ・PTA 等の団体運営に係る経費<br>・PTA 等の団体が所有する施設又は設備若しくは備品の維持管理に係る経費                           | ・PTA 等の総会や会議の開催など団体運営に必要となるコピー代、通信運搬費等の事務費及び運営費<br>・PTA 等の団体が所有することとなる施設、設備及び備品の整備に係る経費<br>・PTA 等の団体が現に所有している施設、設備及び備品の修繕料 など |

## (2) 保護者等への負担転嫁の禁止

学校教育法(昭和22年法律第26号)第5条では、学校の管理運営に係る経費は、原則、学校の設置者が負担することが規定されています。また、地方財政法(昭和23年法律第109号)第4条の5では、住民に対し、直接であると間接であることを問わず、寄附物品等を割り当てて強制的に徴収してはならない旨が規定されており、同法第27条の4及び地方財政法施行令(昭和23年政令第267号)第52条において、住民に負担の転嫁をしてはならない経費として、市町村の職員の給与に要する経費や小中学校の建物の維持及び修繕に要する経費が規定されています。

なお、これらの経費以外のものについても、住民の税外負担の解消の観点から、安易に保護者等に負担転嫁をすることは適当でない旨の文部科学省の見解が示されています。

(参考条文等)

学校教育法第 5 条：

学校の設置者は、その設置する学校を管理し、法令に特別の定のある場合を除いては、その学校の経費を負担する。

地方財政法第 4 条の 5：

国(国の地方行政機関及び裁判所法(昭和二十二年法律第五十九号)第二条に規定する下級裁判所を含む。)は地方公共団体又はその住民に対し、地方公共団体は他の地方公共団体又は住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、寄附金(これに相当する物品等を含む。)を割り当てて強制的に徴収(これに相当する行為を含む。)するようなことをしてはならない。

地方財政法第 27 条の 4：

市町村は、法令の規定に基づき当該市町村の負担に属するものとされている経費で政令で定めるものについて、住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、その負担を転嫁してはならない。

地方財政法施行令第 52 条：

法第 27 条の 4 に規定する経費で政令で定めるものは、次に掲げるものとする。

- (1) 市町村の職員の給与に要する経費
- (2) 市町村立の小学校、中学校及び義務教育学校の建物の維持及び修繕に要する経費

日本国憲法第 26 条第 2 項：

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。

平成 24 年 5 月 9 日付け 24 文科初第 187 号文部科学省初等中等教育局長通知：  
学校の管理運営に係る経費については、当該学校の設置者である地方公共団体が

負担すべきものであり、地方財政法等の関係法令に則して会計処理の適正化を図ること。その際、同法第 27 条の 3 及び第 27 条の 4 は、学校の経費について住民に負担転嫁してはならない経費を規定しており、その趣旨の徹底を図るとともに、それらの経費以外のものについても、住民の税外負担の解消の観点から安易に保護者等に負担転嫁をすることは適当ではないこと。

### (3) 自発的寄附の受納

上述のとおり、法令により、保護者等に負担を転嫁することは禁止されていますが、PTA 等を含む団体や法人からの真に自発的な寄附までも禁止されるものではありません。「真に自発的」な寄附で、その受納を可能とさせていただく物品等については、次ページに記載するものに限ります。

## 3 PTA等からの寄附受納可能物品等及びPTA等の会計で執行すべき物品等

上述のとおり、公費と私費の整理、保護者等への負担転嫁の禁止、自発的寄附の受納を踏まえ、PTA 等から学校に寄附の申し出をいただいた際に受入可能とさせていただく寄附物品等は、市立学校において共通の水準を超えることから公費では賄えないが「教育活動をより充実させるために有益なもの」として、次に定めるものとします。

| 具体例                                                                                                                                                                                        | 備考                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立学校における共通の水準を超え、個人の技量を向上させるなどのために必要となる部活動における消耗品や備品</li> <li>・特定の教科活動において全生徒が利用し、又は学校図書館が通常備えるべき水準を超えて新規購入し、又は増冊購入する学級図書、課題図書、学校図書館図書等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該部活動を実施する上で質的・量的に必須となる消耗品や備品は公費での負担となります。</li> <li>・特定の教科活動で全生徒が利用するような図書、学校図書館が通常備えるべき図書及び教員の研究資料は、公費での負担となります。</li> </ul> |

また、PTA 等の会費で執行していただくものについては、次のとおりとします。

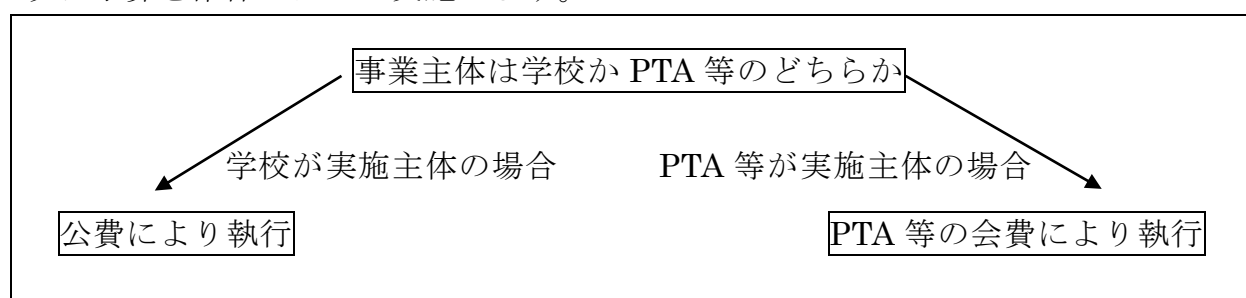
|   | 区分                | 概要                        | 具体例                                  |
|---|-------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 1 | PTA 等が主催する事業又は主体的 | ・PTA 等が実施主体である事業、行事等に係る経費 | ・PTA 等が主催となって講演会、芸術鑑賞会、映画会等を実施し、生徒等や |

|   |                        |                                                          |                                                                                                                                                                                                    |
|---|------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | に参画する事業や主体的に行う活動に要する経費 | ・PTA 等が主体的に参画する事業や主体的に行う活動に要する経費                         | 保護者が参加した場合における当該講演会に係る経費<br>・PTA 等が主催となって実施する美化活動に係る経費<br>・文化祭、体育祭等で、PTA 等が主体的に出し物、展示、活動を行う際に必要となる経費<br>・PTA 等が報償・記念・表彰・祝福のために、入学式、卒業式、運動会、体育祭等においてや進級の際に、直接、生徒等に贈呈するもの及びその会場に展示又は飾付けを行うものに係る経費 など |
| 2 | PTA 等の運営に要する経費         | ・PTA 等の団体運営に係る経費<br>・PTA 等の団体が所有する施設又は設備若しくは備品の維持管理に係る経費 | ・PTA 等の総会や会議の開催など団体運営に必要となるコピー代、通信運搬費等の事務費及び運営費<br>・PTA 等の団体が所有することとなる施設、設備及び備品の整備に係る経費<br>・PTA 等の団体が現に所有している施設、設備及び備品の修繕料 など                                                                      |

#### 4 PTA等からの寄附の申し出があった場合の対応について

##### (1) 事業の実施主体の明確化

学校の教育活動と PTA 等の活動は、密接な関わりがある一方で、学校が実施するのか、又は保護者等の要望に基づき PTA 等が実施するのか、実施主体がどこになるかを明らかにし、会計の負担区分を明確にします。その上で、学校が実施すべきものは、事業の必要性や実施の可否を市教育委員会の担当部局と協議し、適切に予算を確保した上で実施します。



※当該事業は PTA 等が実施主体として整理したにもかかわらず、当該事業の実施時間が教育活動を行う時間内となっていないか（⇒社会教育目的の事業であるにもかかわらず、学校教育の範疇で実施することになってしまっていないか）について、十分に留意します。

## （２）学校と PTA 等との間の寄附に係る共通認識の形成と寄附の意思決定

学校の管理運営に当たり、公費で執行すべきもの及び私費で執行すべきもの並びにその中で PTA 等からの寄附受納可能物品等について、学校と PTA 等が共通認識を持った上で、「より良い教育環境」の実現のために、真に自発的な意思で行われるよう周知を行います。また、学校と PTA 等で寄附の内容について相談をする場合において、PTA 等の真に自発的な意思を尊重し、学校から PTA 等に対し寄附を働きかけることがないようにするとともに、PTA 等が定める規約に基づいた上で、任意加入を担保し、会員の総意を得た上での、真に自発的といえる意思決定であるかについて、ご留意ください。